石桜新聞

発行所　盛岡市仁王田圃
岩手高等学校
岩手中学校
出版委員会新聞部
責任者　小山常光
印刷所
岩手日報社

海を越えた"声の交換"

米国の中学生 P・F・Cへお返し

我校郵便友の会では今テープの交換成功の喜びにひたっている。このテープは米国のカルフォルニア州のロスアンジェルスの南方にあるロングビーチ市の公立トーマスジェフェソン中学校から送られてきたものである。この録音テープ交換は顧問の坂本先生の提案でその目的とするところは"生の声"を通じて正しい英語の発音や社会科の勉強に役だたせたいという願いからであった。そして会員一同の協力により五月頃から計画し放課後、昼休みの時間を利用し図書館の二階で学校生活、郷土紹介、郵便友の会紹介、日本民謡、狂言会員の自己紹介等、かわるがわる吹き込んだ。そして六月十七日航空便で送った。その日から三カ月たった九月の初めようやく『試験休みの間ジョンウェブスターさんをはじめ生徒達は、ハニイ等へ苦行中の為御返事おくれてすみません。又すばらしい物有り難とう。十一月の五日迄には必ず送ります。』という手紙がきた。それから二ヶ月たったその日になっても、テープがこないので会員達は落胆していたが十一月日文化祭のさなか、午後二時に、坂本先生が"テープが来た!!"といってやってきた。待望の会員達は歓声をあげた。その喜びに会員達は歓声をあげた。そのテープの始めには日本に来た事のあるシェールフットさん、ハイヘットさん、マークドウタンスさん、外二名が代る代る話していて内容はシェールフットさんが日本の風景等の感想、ハイヘッツさんが授業内容について、トーマスジェフェソン中学は一クラス四十名で先生は男女五十名、五日制で一校時五十分の七校時（八時一三時十分）、授業は必修と選択となっており、必修としては数学、英語文法、地理、社会、体育、等。選択は美術、音楽、家庭工業美術等で、又大学に入る者は科学、数学、スペイン語を特に勉強しなければならないといっている。宿題は毎日沢山出し、社会科はテープ等によって勉強する。といった後マークドウタンスさんはさらに生徒会の組織、クラブ活動、ロングビーチについて話している。それによると生徒会は選挙制であり、会長副会長、学習委員、体育委員に二度、学校内の討議を行う。クラブ活動は土、日、以外は絶対やらない。運動部としては、野球、タンブリング、バスケット、バレーボールがあり、毎週対抗試合があるその他ロングビーチは工業都市で飛行場有り、油田有り、造船所がある。又わすれられない事は毎年ミス・ユニバースコンテストがある事であるとつけ加えている。そしてテープの最後には歌が入れてあった。このような民主主義の行き届いた国の学校の制度に対し我々も努ばなければならない所もあるのではないかと思う。友の会員はこの成功を踏台にしさらに諸外国のテープ交換の意気にもえたっている。

（写真はとられたテープを聞く一同）

文化祭雑感

石塚彌太郎　先生

赴任して一週間、文字通り日なお浅き僕が、本校一年間の学習活動、クラブ活動の華麗なる文化祭に遭遇し、その所感を求められたが未知の一語につまる。日なお浅き荒田に一応辞退して見たが、高一年B組の佐々木君の強要にあい、気弱に引き受けてしまった。

学校の雰囲気も、学習状況も、クラブ活動も、なんにも知らない僕が、見たまま聞いたままを書いて見るのもまた興ありと思って筆を取ることにした。知らぬが故に正鵠を射ないだろうが、知らぬが仇の客観が何かのためになればと雑感を述べて見る。

先ず校門、文化祭の門口に立つ大きな葉っぱが門柱から門柱へ掛け渡され、行事の標識を誇示してくれていた。この大物を製作されたこの高さにまで持ちあげられた人々の労を多としたい。丁度そこへやって来たパン屋の小型トラックが孰がつかえて校庭に入れなかったお茶目が、本校一年間の学習活動、クラブ活動の華麗なる文化祭に遭遇し、その所感を求められたが未知の一語につまる。日なお浅き荒田に一応辞退して見たが、高一年B組の佐々木君の強要にあい、気弱に引き受けてしまった。

学校の雰囲気も、学習状況も、クラブ活動も、なんにも知らない僕が、見たまま聞いたままを書いて見るのもまた興ありと思って筆を取ることにした。知らぬが故に正鵠を射ないだろうが、知らぬが仇の客観が何かのためになればと雑感を述べて見る。

先ず校門、文化祭の門口に立つ大きな葉っぱが門柱から門柱へ掛け渡され、行事の標識を誇示してくれていた。この大物を製作されたこの高さにまで持ちあげられた人々の労を多としたい。丁度そこへやって来たパン屋の小型トラックの半紙に書いた作品が綴っておいてあったものもこのましきこと。壁間の仮装装もなかなかいい、ただもう少し良質の紙と墨がほしかった。

郷土研究の『めくらごよみ』はよかった。岩手のめくらごよみは歴史上、民俗史上重要視されているのだから、もう少し量を多く、出来れば簡単な読み方を付記してほしかった。

写真はなかなか脳達者。たゞ構図とレベルの東方に今一いきの研究がほしい。出来れば被写体に対する愛情も。

蓄音の部屋のおちつきはうれしかった。中央の机の上にはふだんの国語出版の『岩手の各地を書いた種々の書籍』は御苦労さまでした見どころもあった。説明の国語をもっと正確におねがいしたい。

PFCもありがとう、ソ連邦の一端を見せてもらって得るところが多かった。

絵画は力作揃いでしかった。絵の知識のない僕にとっては謎に真珠。でも一枚一枚モチーフをさがして筆を揮く。

学生放送劇コンクール

文部大臣賞獲得

東北、北海道の民放八社主催、第五回学生放送劇コンクールは十一月七、八日の四日、宮城県男子温泉に作家の並河亮、青江舜一郎演出家の和田清の三氏を審査員に迎えて行われたが高校の部で岩手県代表の本校演劇部制作『生』が一位となり文部大臣賞を獲得した。このコンクールは各県で地方予選を行い各学校の部からそれぞれ代表作品を持ち寄って行われたもので、本県ではラジオ岩手の主催で脚本募集を行った結果、大学の部では早大代表作品に選ばれ、この脚本をさらにラジオ岩手のスタジオで録音製作し本選に出品したもの。本校は初めての出品一位に入賞した。優勝した『生』は学生自身のオリジナルで生活苦に喘ぐ貧農の一面を悲しくうたい上げたもので、暗いテーマながら高校生らしいドライなタッチが好評を博した。

台部長談＝昭和卅三年度東北、北海道地区学生放送劇コンクールに於て、最優秀と決定し、高校の部で一位。光栄ある文部大臣賞と民間放送連盟賞、県教育長賞と数々のトロフィー、賞盃、賞牌が授与されることになったことは、演劇部一同感激にたえません。稽古録音の時はラジオ岩手の第一スタジオで深夜迄、疲労を感えて朦朧の状態に陥り、家に帰れず放送室のソファーに寝た事など昔の思い出になってしまった。これも演劇部のチームワークと熱意によるたまものだと信じて止みません。

なおスタッフ、キャストを紹介しますと、演出＝斎藤敬二、効果＝堀田敬、たつじ＝台博亮、安天＝斎藤正太郎、友吉＝佐々木重雄、信天＝谷地厚民夫、子供＝塚沢五郎、その他部員多数、昔助出演テアトルDE蛸村効子、広田梢。

本紙二席に入選

県下新聞コンクール

去る十月一日より一週間の全国新聞週間にちなんで例年通り日報社主催の県下高校、中学校新聞コンクールが行なわれた。本紙は四十七、四十八号を応募した。応募校は県下高校十七校、中学九校で五日、日報社編集局長以下編集各部長が審査を行った。本紙は惜しくも福岡高校におさえられ第二席に入選した。

表彰式は十月十日午後一時より日報会議室で行われた。本校からは小山常光君、佐々木保五郎君が参席。渡辺編集局長の挨拶に始り審査経過の報告の後、局長から賞状、賞品が授与された。

音楽発表会開かる

満場の拍手あびた

コーラスクラブ

岩手日報、ラジオ岩手共催による、第十三回県下高校音楽発表会が十月十二日（月）午後一時、六時の二回に分けて、県公会堂第一ホールにおいて行われた。

参加校は本校を加えた二十五校昨年よりも参加校は少なかったが合唱をはじめ、独唱、重唱、合奏等多彩なプログラムで観客を魅了した。

内容も昨年よりも各校ともに向上のあとが見られた。

本校は部員一十余名が校の部に出場。高二の横矢君の指揮で『山』『自百合』の三曲を合唱し、近頃になく満場の拍手をあびた。

なお来るべき、クリスマス・コンサートに参加のためコーラスクラブは新入部員を加えてすでに練習に励んでいる。

西在家先生御結婚

本校英語担当、新聞部顧問西在家寛先生は、文化祭の準備で急がしい十一月二日三田地和子さんと華飾の典を上げた。

祝辞をのべた新聞部員に、先生は威厳を保ちながらも喜こびをつつみかくしきれずに、記念品を受け取られた。

校外短信

▽けむたい話

札幌商高校では最近自習時間がめっきりふえたので、生徒十名余りが校長室で座り込みを敢行したそうです。自習時間があると飛び上って喜ぶ本校の生徒とはどうも質が違うらしい。

▽現代珍用語

この程行われた新語解釈のテストの中から傑作を二、三あげてみよう。

○スローガン＝庫がゆっくり飛ぶこと。

○エゴイスト＝英語のみ勉強する者。

○浪漫主義＝浪人が漫画ばかり読んで気楽に過ごす主義。

▽劣等生の日記

×月×日、今日A君は学校をサボッて映画へ行ったのがバレて先生にとがめられました。しかし僕はどういったA君を世界中の誰よりも尊敬します。『彼が映画を見に行ったのは、英語と社会と美術と音楽の勉強をするためだったんです』

▽学生三悪追放

一、試験
二、授業料
三、通信簿

▽六十年の伝統

山梨県某高校はあと一年はたで創立六十周年を迎えることになるが、これ迄"イガグリアタマ"の伝統を堅持してきた学校、ところが時代の波が三年生の中には寛休みだけでもとひそかに伸したところ、三年担任の先生、早速自分の頭をかみそりで剃ってしまわれた。こうなっては生徒もいたしかたなく三分刈りを実行。六十年の伝統に汚点（？）をつけずにすんだという。

▽先生稼業も楽じゃない。

"最近先生方にアダナがつかないようだが、これは先生方の授業に個性がない証拠である。」などと校長先生が放談した。不幸にも？アダナの持ち合せのない先生大あわてで授業中、ついに『アダナ歓迎ノ形式、字数自由。なお採用の方には薄謝贈呈』

面に盛ってきたこと、生徒自身の新聞に近づいて来たこと、ただ一部をのぞいては、写真、見出を工夫して欲しいとのことだった。

断言

▽文化部唯一の見せどころ、文化祭も女学生多数？来校で無事終了来年度は他校男子高校生もやって来てくれるよう努力したいもの？

× × ×

▽ある日の雑談から

『本校に来てから胃の調子が悪くなった』……新入生

『さびしいよ、イガグリ頭だけでは』……さびしがり

『デートも出来ません、喫茶店出入禁止』……まセてる野郎

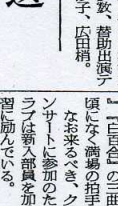
五行アンケート

一、趣味
二、愛読書
三、好きな食物
四、尊敬する人
五、自信出来る事柄

国語担当　石塚彌太郎先生

一、俳句、写真
二、文化出関係の本
三、甘もの、ソバ
四、法然上人、鴨長明
五、なし

メガネ



仙北村河佐近田青鉄盛赤手　岩手医科大学病院
北十井野竹藤村山道岡木　眼科病院
木田眼科病院
井眼科病院
野眼科病院
竹眼科病院
藤眼科病院
村眼科病院
山眼科病院
道眼科病院
岡眼科病院
指定
メガネのデパート　最新式機械完備
水晶堂眼鏡店
本店　盛岡市中の橋通り　電話　6321 6322
支店　盛岡市中通り　6323 6324

12月2日—8日　支部省選定
平和の谷
十一人の越冬隊
シネマスコープ
ゲリー・クーパー★ダイアン・バーシ
秘めたる情事
ダニイ・ケイ★クルト・ユルゲンス
戦場のドン・キホーテ

12月9日—15日　支部省選定
公開迫る！　総天然色　東映スコープ
巨匠　内田吐夢監督
の最高作!!　本年芸術祭参加作品
森と湖の
まつり
春の様に暖かい！　盛岡東映　暖房開始

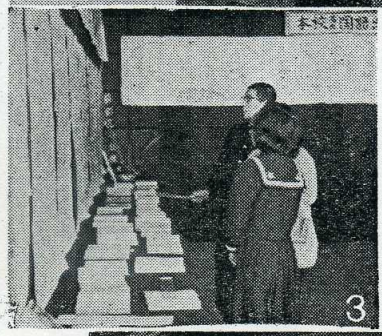
映画は国劇　★　楽しい国劇

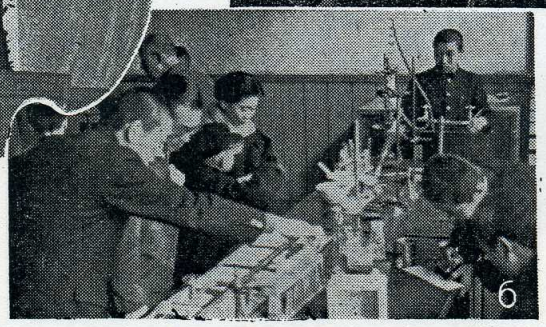
本年度行事の最後を飾る本校文化祭は秋も深まる十一月八・九の両日、十六会場二十一教室で、はなばなしく開催された。文化部、年一度の発表の機会だけに各部とも苦心をこらし、展示物が各教室をにぎわし観客の目をひいた。

また二万講堂においては演劇、音楽、弁論など熱演に次ぐ熱演でヤンヤの拍手をあびた。

両日とも晴天にめぐまれ近年にない盛況をていし開催中郵便友の会の吉報が舞いこんでこれに色をそえた。

スナップ特集 写真で見る文化祭





スポーツの部とは違って、内面的な活動の本校文化部に一聖火をともすべく、二十一教室にわたって今年度文化部の成果がくりひろげられた。

当三諸君にとっては最後の高校生活のよりよき思いでともなったことだろう。

各部とも相当の期間をかけて研究し努力を重ねた上のものだけに熟合に充実した部も見られたが、全般的にはまだまだ研究の余地が残されているのではないか。

そこで新聞部では熱弁をふるった弁論大会を花切りに華やかな幕の幕をひらき、音楽、演劇、映画と多種、多種、多様なプログラムで観客から拍手かっさいをうけた文化祭を一連の写真集として思いを新たにし、反省を促してもらいたいと思いとこにかかげた。

新聞部主催 文化祭コンクール

本校文化祭は盛況のまま二日間の幕を閉じた訳であるが、新聞部では新しい試みとして先生並びに生徒有志著干名の御協力によって文化祭コンクールを試みた。

これは文化部各部の来年度の文化祭発展のための参考資料として行ったもので、『一般的によかった部』『説明のよかった部』『展示内容のよかった部』の三部門に分けて五十余名の者に投票してもらったものである。

▽各部門にはそれぞれ映画部、化学、国語出版が文句なしトップに立ったが、二、三位は各部ともまったく混戦でわずか一票で当外になれるものがかなり見られた。

なお先生、生徒からの感想並びに成績は次のとおりであります。

◇一般的に良かった部

映画展	13票
山岳展	7票
国語出版展	7票

◇説明の良かった部

化学展	19票
JRC展	6票
山岳展	6票

◇展示内容の良かった部

国語出版展	13票
PFC展	9票
映画展	7票

◎三部門ベストスリー

◎参加展

鶯道、郷土研究、写真、郵便友の会、国語出版、青少年赤十字絵画、図書、生物、物理、化学音楽、映画、山岳、地学。

◎文化祭についての感想

○ 係の生徒だけが文化祭をしているんだというのでなく、もっと全生徒の積極的な参加意識がのぞましい。それには演劇、弁論等も出演者を部員外からもとんじん出すことがのぞましい。

○ 年毎に文化祭本来の姿がみられるようになってきたことは喜ばしい。

○ 展示内容に新鮮さがほしい。毎年同じような展示内容では？

○ もっと批判的な態度、精神をもってほしい。

例えば『映画部』などは俗悪な金儲主義的映画を学生の立場から厳しく批判して欲しかった。

○ 一ヵ年間を通しての研究資料でありたい。

○ 非常に充実したものも多く感心しました。

写真説明

❶ "ウーン！サスガニウマイモンダナア" 書道展より
❷ "ズイブンタクサンアルンネ" PFC切手展より
❸ "そこでですネ……" 国語出版展より
❹ 熱弁とヤジのうずまく弁論大会
❺ "征服してホット一息？" 山岳展より
❻ "ツッソの製造は……" 化学展より
❼ "チキショウ、ヤリアガッタナ" 裕次郎特集＝映画＝

岩中物語 ―その三―

工藤久吉氏寄稿

人格校長と、校内外から言われた初代鈴木卓苗校長は、開校当時、既に相当な御年輩だったように記憶する。男子の中学校々長としては、確かに風変りな校長であったかも知れぬ。短身丸顔に撫降りの口髭を生やし、下腹が膨れて太っておられたので、生徒達はダルマ校長と綽名を付けたものだ。自ら修身科を担当されていたが、この修身の講間には、開講前、必らず教室に座禅をやる。教卓の蔭で眞く判らないが、御自分は椅子の上にあぐらをかくように坐って、下腹は両手を組合せて瞑目五分間。最初慣れない間は、室内が急に深閉と静まり返ってしまうと、無精におかしくなってクスクス、ひとい奴は噴き出したりするが、こっそりやすかに眼を開いて校長を見れば、端然と坐して無我無想に耽っておられるらしい。

修身の時間だと、屋後何か運動をしているので、部子窓越しに ボカボカ程良い陽を浴びると眠くなってやり切れない。丁度子守唄のように静かな街を（当時は大沢川原小路で今日のように警笛を鳴らして通る自動車など絡段となかなかの）甲高い花売娘の『花売るハーナー』の呼声が、どの方角からか、だんだん高くだんだん低くなって行く。眠くて頭をグラリグラリやっていると突然ドンと先生の拳が教卓を叩く、皆ビックリして開眼座禅を終えるという状態。この校長先生がまた、自彊術の先生であった訳だ。前稿岩中物語に自彊術の後身は何だろうか見当がつかないとあるが、自彊術には後身も前身もないので、紙片の許される限りこの自彊術なるものについて書いて見たいと思う。

教育の尖頭に、大正五年東京在住中井芳五郎創案、一種の健康増進運動法なり。門人十文字大元が、古書『周易』の、天行健、君子以自彊不息、の文中より顧名。子女老若不問強壮者にもまた虚弱者にも最良の健康増進運動なり。男子は猿股一つの裸、女子は単衣または看護服着用、端坐の姿勢にて始め礼をなして、第一動より始め第三十一動で終る。所要時間十数分、一人にて集団にてもたのし得る。起床直後、就寝前の朝夕二回を行うも可とす。但し運動開始前般糞放尿に留意。とあって第一動から第三十一動まで、一々動作を現わした人の図を載いてある他に急所々々を詳しく説明して、連続動作の回数も個々に書いてある。

この三十一動までの運動を、健康体では三十分間で連続二回繰返すことになっているが、校舎はその頃、女学校の後身だったので幸い裁縫室か作法室だった畳の部屋が二階にあったので、冬、武道の寒稽古の時も、武道をやらない者は全部この自彊術運動をやらなければならなかった。寒中裸になるのは最初辛らかったが、正面の先生の動作について掛声を出して十分もやっている間に体が熱くなって来て、二回終った後の爽快味は、また格別なものだった。

私には自彊術で思い出話がある。岩中を卒業して後の話であるが満州ハルピン在住当時、私が下宿していた英国人の家庭で、私と前後した年頃の四人の兄姉妹がいたが、ある時この日本の自彊術の図本を見せてその効能を解いたら、それを是非教えてくれというから、彼等の部屋のベッドの上からマットを引き降して最代りに床板の上に敷き並べ、実際に動作をやりながら、下手な英語で懸命説明に努め教授をしたが（本を見ながら）第一、日本式に帯を締って坐るという事が彼等に取っては相当難かしいことであった。

それに第何動だったか、坐ったまま両足を箱々開いて尻を畳まで落して、そのまま前向けに伏して動作を起すのがある。それをやるために私は起って行って手を出して強引にやろうとする、足首あたりの苦痛にたえられないらしい。大きな声で"オーフル・オー・ブンフル"の連発だ、やはりこれは日本式のもので、外国人には一寸と無理なようであった。

風速40米
でも大丈夫
それは体育堂のアノラック、ワームコートです。
スケートとスキー用具
藤沢体育堂
盛岡市材木町　TEL 2432

パーロット万年筆
書初用毛筆、墨、画箋紙
木津屋文具店
盛岡市材木町
デンワ 2240

D.P.E
各種記念写真
アルバム作製
にしき写真館
盛岡市菜園錦町　TEL 2209